

千葉県市原市の大型ショッピングモールにおける飲用後のヤクルト容器の 回収およびケミカルリサイクルを開始 ～ポリスチレンのモノマー化ケミカルリサイクルによる水平リサイクル～

デンカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：石田 郁雄）は、当社および連結子会社である東洋スチレン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：七井 正成）が参画する「市原市ポリスチレンケミカルリサイクルシステム推進協議会」（以下、協議会）において、千葉県市原市の大型ショッピングモール「ユニモちはら台」で、飲用後のヤクルト容器の回収およびケミカルリサイクルによる再製品化に関する取り組みを、2026年4月27日から開始することをお知らせいたします。

SDGs 未来都市である市原市は、循環型社会形成の推進に資することを目的として「市原発サーキュラーエコノミーの創造」を掲げています。本取り組みは、こうした市原市の方針のもと、2024年から、協議会の「乳酸菌飲料容器水平リサイクル検討部会」において、会員である「ユニモちはら台」、株式会社ヤクルト本社、東洋スチレン株式会社が協働し、資源循環モデルを検討してきたものです。

2024年から2025年にかけて、「ユニモちはら台」において3回の回収試験を実施し、異物や汚れが少ない品質の高い飲用後のヤクルト容器を回収できることが実証できたことから、実現に至りました。

本取り組みでは、「ユニモちはら台」に飲用後のヤクルト容器を回収する専用ボックスを設置し、容器を回収します。回収した容器は、デンカ千葉工場内にあるポリスチレンケミカルリサイクルプラントで化学的に分解し、原料（スチレンモノマー）の状態に戻した後、再度重合することで、新品同等の品質の「リフレッシュ ポリスチレン®」（*1）を生産します。得られた「リフレッシュ ポリスチレン®」を用いて再びヤクルト容器にすることで、資源循環を進めます。

このように、ポリスチレン容器の回収・モノマー化ケミカルリサイクル・樹脂の販売・容器への製品化にまで至る資源循環の取り組みは国内で唯一です。

デンカグループは、スチレン系材料のサーキュラーエコノミー推進に取り組むべき施策の一つと位置付けています。2050年のカーボンニュートラル実現を見据え、安全・安心・快適な日々の暮らしの実現に貢献するサステナブル製品の展開を推進し、環境負荷低減に対する社会やお客様のニーズに応えるとともに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを一層強化してまいります。

デンカはこれからも「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」というパーパスのもと、世界に誇れる化学で、人々の暮らしと社会に貢献し続けます。



乳酸菌飲料容器の水平リサイクル図

以上

- *1 本取り組みにおける「リフレッシュ ポリスチレン®」は、ISCC PLUS 認証に基づくマスバランス方式(*2)により、持続可能な特性を割り当てた製品です。
- *2 マスバランス方式とは、異なる原料（例：石油由来原料と廃プラスチック由来のリサイクル原料）が混合される場合に、特定の原料の投入量に応じて生産する製品の一部にその特性を割り当てる流通管理方式です。

【ご参考：関連過去プレスリリース(デンカ公式ホームページ)】

- 2024年3月19日「“国内最大”の行政と連携したポリスチレンのケミカルリサイクルが始動」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1213/20240319_denka_ps_chemical_recycle.pdf
- 2024年5月29日「千葉県市原市とポリスチレンケミカルリサイクルプラント稼働に伴う拠点回収に関する事業連携協定を締結」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1234/20240529_denka_ps_chemical_recycle.pdf
- 2024年6月24日「当社及びグループ会社における国際持続可能性カーボン「ISCC PLUS 認証」取得について」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1240/20240624_denka_ISCC%20PLUS.pdf
- 2025年4月7日「スチレン系材料の資源循環システム「D-NODE™」ブランドについて」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1297/20250407_denka_%20dnode.pdf

【報道関係者からのお問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部 電話：03-5290-5511

【お客様からのお問い合わせ先】

ポリマーソリューション部門 事業推進部 電話：03-5290-5565